

あしがき 過去に一言、そして歌う

東側の御殿場線の線路の上からわが家に向かって大声で歌を歌いたい。小学生の頃は、いつも歌いました。近所のおばさんが、「いい声だねえ、レコードかと思った」と言ったのを、ずっと覚えています。それは一生忘れられないうれしい事です。今、線路の周りにはその後たくさんの家が建ちました。

わが家の二階の台所の北側から松田山にかかる大きな虹を見たい。それは、美しい風景でした。虹が目には焼きついています。今、三階建てのアパートが四棟建ち、松田山は見えなくなっています。

このアパートが建っている場所は、もとは梅林で小川が流れていました。春になるとウグイスが来て、美しい声で鳴きました。小川にはザリガニやカニ、ドジョウ、カワナがいました。蜂屋さんが梅の蜜を集めるためわが家の庭に沢山の蜂の巣箱を並べました。お返しに絞りたての蜂蜜をいただきました。

しばらくすると、梅林は伐採されて畑になり、春は菜の花が一面に咲きました。一階の台所の窓を開けると、黄色の風が飛び込んで来ました。秋には家畜用のトウモロコシの畑になりました。二人の娘たちはこの中で、かくれんぼをしたりして、のびのびと育ちました。坂道がアスファルトになると、小川もコンクリートの蓋がされました。

富士山の向こうに沈む大きな夕日を見たい。西側はお寺でした。毎年春になると先代のお寺の奥さんから筍をいただきました。今は、寺とわが家の間に新しい二階建て

の家が七軒建ち富士山が見えません。新しい家からは若いお母さんが子供を叱る声が響き、子供が泣き叫んでいます。

線路向こうの田んぼで、タニシをバケツに何杯も採って来たのを、ゆでて佃煮にして食べた事があります。おいしかったのを覚えています。祖母が作ってくれた、おばあちゃんの味です。

田んぼに囲まれて神社があり、その側にも小川が流れていました。夏になるとたくさんのおとこが飛び交いました。父と、ほうきを持って採りに行き蚊帳に放ちました。おとこが飛ぶのを見ながら寝ました。それは、のんびりと風流なものでした。今では、神社の周りは新しい家が建ち、田んぼがなくなったために、おとこはいなくなりました。

学校の帰りに麦畑に入り麦笛を鳴らして叱られた事も楽しかった思い出です。御殿場線の相模金子駅付近も、新しい家が建ち、麦畑を見ることはありません。空高くひばりがさえずり、田の畦にはかわいい卵が入った巣がありました。麦笛の音と、ひばりのさえずりが耳に残っています。

私の故郷は、もう戻って来ません。思い出の記憶は次第に薄れて行きます。

むずかしいことをやさしく

やさしいことをふかく

ふかいことをおもしろく。

私は、これを座右の銘にして童謡の会をやっていこうと思っています。童謡の会は、私の夢と希望です。これからも歌って暮らして行きたいものです。

平成二十四年四月三日

池田小百合